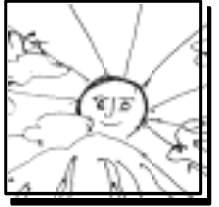


アイキャンだより

2003年12月
第33号



特集 フィリピンと日本のコミュニケーション！



ミンダナオの子どもと交流する里親プログラム



イベントを通じてパヤタスの現状を紹介



里子たちのミーティング風景



ゴミ拾いからの脱却を目指す職業訓練

ICANの里親プログラム	松岡 亜湖	p.2-3
Love&Lifeの10年をふり返って	M.C.Josephsen	p.4-5
イベントでのボランティアさんの活躍を紹介！		p.6-7
ICANを通して思うこと	山田 味加	p.6
フェアトレード IN 日本福祉大学祭	塚本 友紀	p.7
ICANの国際理解教育2003	市川 恵、松岡 亜湖	p.8-9

スタディツアー参加者募集！	p.9
カードキャンペーン報告	p.10
ご協力者のご紹介	p.10
初心者のためのフィリピン講座(コミュニケーション篇)	
里村 京子	p.11
会員になってICANを支えよう！	p.12
新規会員、会員継続者のご紹介	p.12

ICAN (アイキャン) 特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-20-11 NPO プラザなごや2F

TEL&FAX (052)582-2244 E-mail: info@ican.or.jp ホームページ: <http://www.ican.or.jp/>

ICAN の里親プログラム

松岡 亜湖

里親プログラムでは、ミンダナオ島のジェネラルサントス市で、現地福祉法人Love and Life Inc.(以下L&L)と協力して、経済的に厳しい環境にある子ども達が学校へ通うための支援をおこなっています。

このプロジェクトは、里親会員はそれぞれ特定の子どもの里親として、学費・学用品費・制服代・医療費などの養育費を援助する、1対1の支援です。里子の選考はL&Lスタッフが、家庭訪問や近所での聞き取りなどを通じて決定、ICANに報告します。

里親には、担当の子ども、ソーシャル・ケース・リポート、写真、援助した資金の用途を報告するファイナンシャル・リポート、子どもからのカードが届きます。里親は、里子との手紙のやりとりを通じて、交流することもできます。里親会員に入会、翌年度も支援を継続する際は、毎年同じ里子を担当していただきますので、支援を通じて、子どもの成長を見守ることができます。

ソーシャル・ケース・リポートの内容は、下記の通りです。

- 1)名前、2)年齢と性別、3)誕生日と出生地、4)現在の教育環境、5)民族と宗教
- 6)家族構成と生活環境(親の仕事)、7)子どもの紹介(学校・家庭での様子や性格)

フィリピンでは、小学校は義務教育で、日本と同様に、6歳で小学1年生になります。里親支援の対象となる子ども達は、子だくさんのため食べていくのがやっとの家庭に暮らし、なかなか学校に入学できない子どもが多いのです。(学費は無料なのですが、貧しい家庭では、制服や文具の購入・スクールプロジェクト費の捻出が困難です)ですから、里子となる子どもの年齢も、6歳、8歳、9歳、13歳などさまざまです。里子となる子ども自身も、家族も、学校に通って勉強することに意欲的です。

2003年に里親プログラムの支援対象となり、13歳で、念願の小学校入学をした、ダンテ・メラモンテさんのソーシャル・ケース・リポートをご紹介します。



向かって右はしがダンテさん

ダンテさんは、9人家族の末っ子です。2003年現在は、おじ・おば夫婦のもとで、姉と、5人のいとこと一緒に生活しています。1997年に父親が交通事故で他界、母親は子どもを残して再婚してしまったため、おじ・おば夫婦が、ダンテさんとお姉さんを自分のところに引き取り、大切に育てているのです。

この家庭には、学齢期の子どもが、ダンテさんを含めて5人いるのですが、一家の収入は、4,000~6,000ペソ(約8,800~13,200円)で、食

べていっただけでも精一杯の状態です。ニパヤシの葉と竹の皮でできた、夜は全員が横になればもういっぱいになるような小さな家ですが、家族は仲良く助け合って生活しています。宿題や勉強も教え合っているのですが、ダンテさんの学費を工面することはなかなかできなかったそうです。

13歳で小学校に入学したダンテさんは、年少のクラスメイトたちからかわれることもあります。意欲的に学校に通っています。得意な教科は数学とフィリピン語、苦手な教科は英語と理科です。苦手教科も努力して学習し、試験も無事にクリアしています。

このように、里親プログラムは、経済的に厳しい環境にあり、学校へ行くことができなかった子ども達に、基礎的教育を受ける機会を提供しています。



ミーティング風景

文具と制服を受取るジョーイ・エスコラノさん(高校二年生)

多くの方のお力添えを賜り、2003年の里親プログラムでは、150人の子ども達を支援することができました。今年もL&Lも10周年を迎えます。第一期の里子3人は、2004年3月、ついに高校を卒業する予定です。フィリピンの小学校は留年や落第もあり、経済的に厳しい環境にある子どもと家族にとって、高校に進級して勉強を続けるのは、たいへんなことです。金銭面の支援だけでなく、L&Lスタッフの家庭訪問や学校訪問・年に四回のミーティングを通じた精神的サポート、そして何よりも、里親の励ましがあったからこそ、子ども達もがんばってこられたのでしょう。

高校を卒業する子どもが出るのに合わせて、現在、「次世代リーダー育成プログラム」の案を練っています。これは、里親支援を、単なる学費援助に終わらせず、ジェネラルサントスで、地域住民自身の手による自立活動を目指すものです。里親プログラムの卒業生の中から、地域社会に貢献できる人材を育成するため、大学の進学を支援します。社会福祉・教育などの優先分野を設定、調査表・小論文・面接などの選考を経て、2004年3月の卒業生からは、1名を支援する予定です。

L&Lの発足メンバーの一員で、エグゼクティブ・ディレクターのマリーディーンさんに、里親プログラムの10年をふり返る記事を書いていただきました。マリーディーンさんは普段はデンマークで生活していますが、2003年6月から2004年1月まではジェネラルサントスで過ごし、かわいい里子たちとの時間を満喫しています。

Love & Life の10年の支援活動をふり返って

Marieden C. Josephsen

Love&Life の里親事業の実施規模は、里親からの支援金額に大きく影響されるため、私たちは教育支援を最優先事項としています。実施にあたっては、日本の ICAN と活動できることに心から感謝しています。「6人以上の子どもをかかえた家族で、子どもの教育にまで手のまわらない貧しい家族に援助の手をさしのべる」という目標を ICAN は私たちと共有してくれています。日本の里親のおかげで、家族の中でたった1人とはいえ、子どもが無償で教育を受けることができます。奨学生を支えてくださっている里親のみなさん一人一人に感謝の気持ちでいっぱいです。

Love & Lifeの里親事業とは

(1)教育支援

過去10年間にわたり、当事業は多くの奨学生に学費を支援すると同時に、スクールプロジェクト費の補助もおこなってきました。これは、学校の設備向上のために生徒から徴収される費用(トイレの設営、校舎のペンキ塗り、くぎ打ち、教室などの補修、子供たちの視覚理解を助けるための模造紙支給など)を含みます。



ラブリーさん

Love&Lifeの奨学生は、年間の授業料の支援を受けることができ、また、学校の制服(ブラウス2枚、スカート2着、体育の授業用にTシャツ2枚)、ソックス2足、靴1足、傘1本(雨天、日よけ用)、学用品(大判2冊を含むノート、作文用のノート、メモ用紙、鉛筆、筆箱、クレヨン、鉛筆削り、消しゴム、ものさし、はさみ、のり、カバン)の支給も受けられます。

また、必要に応じて、ガールスカウトやボーイスカウトの制服なども支給します。

今年、ラブリー・バウティスタさん(小学一年生)が、バトンガールの制服の支給を受け、学校週間、運動会、市や村や学校の記念日に出席しました。ジュリー・アン・クロマさん(高校三年生)も、ガールスカウトの制服一式(帽子、ベルト、制服、ソックス、ハンカチ、パッチ)、ワールド・ピン、フレンドシップ・ピン、ホスピタブル・ピンの支給を受けました。

また、学校へ通うための交通費を捻出できない家庭や、休憩・帰宅の際のおやつを購入する余裕のない家庭に対しては、交通費やおやつ代を支給しました。今年度は、奨学生のうち12名が、学校と自宅を往復するための交通費を支給されました。また、3名が、おやつ代を支給されました。

交通費、おやつ代として、1年間に渡り、週に50ペソが支給されました。奨学生全員が同様に支援されるよう、翌年は、別の奨学生グループが交通費、またはおやつ代の支援を受けます。

(2) 医療支援

里親事業は教育支援だけではなく、奨学生とその家族が亡くなったり、病気になったりした際の緊急事態にも対応しています。里親事業は、医療支援にまで、その枠組みを広げているのです。

奨学生は、一人あたり300ペソの医療支援予算が割り当てられています。奨学生は全部で150人いますが、健康で、医療支援予算をほとんど必要としない子どもも出てきます。このため、医療予算はある程度流動的に活用することが可能で、奨学生は、緊急時には300ペソの予算を超える額であっても、医療支援を受けられます。

今年度、実施された、主な医療支援・緊急事態への対応例をご紹介します。

ネシティ・エントラダさん(高校三年生)は、スマイル・トレイン財団の事業の一環で、セント・エリザベス病院で口蓋手術を受けましたが、家族に費用負担はかかりませんでした。ネシティは上部の歯のはえ方が不ぞろいな上、話すのも苦手で小さい頃から友達とのコミュニケーションもままならない状態でした。手術後は、自信を取り戻し、話すこともできるようになりました。毎土曜日、わたしと本を読んだり、コンピュータで遊んだりしています。

アグネシア・カレネロさん(小学五年生)は、耳の感染症にかかったため、診療代と医薬品代の支援をラブ&ライフから受けました。

また、アイビー・バロンさん(小学一年生)は、腸チフス熱のため入院し、入院費用、医薬品代の支援を受けました。

緊急対応としては、エレノア・パルマさんの息子さん(奨学生のロニー・パルマさん(小学4年生)の兄)が亡くなった際、お通夜の食事、埋葬代が支給されました。

(3) 今年度の特記事項

Love&Lifeがアニリ・アランシナさんに試験的に奨学金を支給して以来、10年が経過しました。2003年12月23日はその記念日です。当日、クリスマスプレゼントが奨学生とその家族に贈られます。高校生以上の子供たちは、1時間、ディスコ・アワーを楽しみたいようです。奨学生とその家族にとって、盛大なお祝いの日となるでしょう。



ダンスが好きな高校生たち

ご協力いただいたおかげで、今年度も事業が成功裡に終了しましたことに心から感謝しております。来年度、大学に入学予定の生徒を初めて支援することになりそうで、今から楽しみにしています。アニリ・アランシナさん、ジェフリー・ラロパイさん、ダリル・バンダランさんの3名が、支援対象の候補者で、彼らはジェネラル・サントス市の大学に入学登録の準備をしています。

ICANのみなさん、ありがとうございます。神のご加護がいつもみなさんとともにありますよう。メリー・クリスマス、そして新年おめでとう！

イベントでのボランティアの活躍をご紹介します

ICAN の活動は、多くのボランティアの皆さんに御協力いただいて、成り立っています。今年の秋は、イベント・バザーの開催機会も多く、地球市民フェスタ、アジア保健研修所のオープンハウス、椋山大学祭、SOZO フェスティバル、金城大学祭、樺の家バザー、東海理化の社内イベント、国際交流ふれあいフェスティバル、砂田橋学童保育バザー、日本福祉大学祭に参加しました。こんなに多くのイベントやバザーに参加できたのは、ボランティアの皆さんのおかげです。ありがとうございます。

地球市民フェスタに参加者として、ICAN の活動紹介を聞いたのをきっかけに、事務局ボランティアを始めた山田さん、夏のカードキャンペーンの参加をきっかけに、大学祭に ICAN のブースを出展した塚本さんの活躍をご紹介します。

ICAN を通して思うこと

山田 味加



「何らかの形で国際協力に一生携わっていきたい！」そんな思いを約3年前から抱いています。学生の頃フィリピンの孤児院で生活した体験がきっかけです。それは、私にとっては生涯で最も充実した日々でした。今も私の心の支えになっています。

有言無実行の私は具体的に国際協力に関わることができず、最近の自分自身に憤りを感じていました。日本で私なりに頑張っていることが、フィリピンで出会った子供たちへのお礼になるような気がしている私は、気付いたら

名古屋国際センターで行われた、「地球市民フェスタ」に参加し、ICAN と出会うことになり、現在に至っています。

10月初めに「地球市民フェスタ」で ICAN と出会った私ですが、10月末には「国際協力ふれあいフェスティバル2003」にボランティアとして出展者側で参加しました。

そこで、感動する出会いがありました。私の ICAN の活動紹介を熱心に聞いてくださった男性が数分後、500円と「給食支援に協力します。」というメモを持って戻ってきてくださいました。その瞬間、私は涙がでました。鳥肌が立ちました。男性のその温かい心に感動しました。あの場にいることができ、あの感動を味わうことができ、幸せでした。さらに、私の「国際協力」への志を高ぶらせる出会いでした。

様々な行事に参加し、ICAN に出会い、「国際協力」について以前にもまして真剣に考えるようになりました。世界には、勉強したくてもできない子や、明日の食事を心配する人がたくさんいます。私はそのような心配を一度もしたことがありません。でも、私はそれが本当に悔しいのです。このように比較できる現実に憤りを感じるのです。

まず現状を知ることが大切だと感じました。そして、そのことを多くの人々の琴線に触れさせるように共有できれば、ICAN との出会いが活かせると思います。より詳しく、より多くのことを伝えるにはまだまだ勉強も経験も不足している私ですが、興味・関心のある方々にお会いすることができ、お話することができ、行動することができる『今』に、私はとても充実しています。

フェアトレード IN 日本福祉大学祭

日本福祉大学3年 塚本 有紀

★ICANとの出会い★

私は、今年の2月に大学の研修でフィリピンに行きました。そして、都市部と農村部、両方の貧困地域を訪問し、また路上ではたくさんのストリートチルドレンに出会いました。帰国後、「今の自分に何か出来ることはないか？」と考えていた時、ICANのHPに行き着き、<ミンダナオの子ども達を励ます夏のカードキャンペーン>について知りました。「これなら私にもできる！」と思った私は、思い切って問い合わせをしました。それが、私とICANとの出会いです。またその時、数あるNGOの中から選んだICANのスタッフに、私が通う大学のOGの市川さんがいらっしやっただので、大変驚きました。

★大学祭に参加★

カードキャンペーンに参加した私は、「もっと自立につながること、フィリピンで見てきたことを自分の口から人に伝える活動をしたい！」と感じました。そこで、大学祭にICANのブースを出展、フェアトレード販売と写真の展示をすることにしました。

今回の出展では、1)フェアトレード、2)研修中に会ったフィリピンを他の人に伝える、3)学校の研修を広報するという、3つの目的を持って取り組みました。

盛りだくさんの内容を確実にこなせるかどうか心配でしたが、当日は予想以上にブース内は盛り上がり、また売り上げも好調でした。これは、「できるだけ良いブースを！」と、研修メンバーの有志、他のルートでICANを知った福祉経営学部の1年生、約20人が、みんなで頑張ったからであり、また短期間での準備で、バタバタしていたにも関わらず、みんなが本当に協力的で、いつもフォローしてくれていたからです。それから、市川さんが適切な助言をしてくれたお陰だと思っています。



★最後に★

今回の出展は「パヤタスの人たちのために…」という気持ちより、「今の自分に出来ることを何かしたい！」「フィリピンを知ってもらいたい！」という気持ちの方が強かったと思います。だから、大変だったけれど楽しかったし、終わった後には多くの充実感が得られました。これからも、どんな方法でもいいから、自分が感じたフィリピンについて伝えていくこと、何か自分にできることを探し続けていきたいと思えます。カードキャンペーンについて問合せた1通のメールから、多くの出会いがあったこと、良い経験をさせていただいたこと、それから協力してくれた皆さんに感謝します。ありがとうございました。

2003年、国際理解教育のプログラムとして、小学校から短大まで 6 校の学校での計12回の訪問授業、イベントでの国際理解ワークショップ、事務所での訪問者受入、カード&文具キャンペーン、児童労働や国際理解教育に関する学習会などを行いました。これらを通じて、さまざまな形で国際理解のための教育・啓発活動に取り組みました。発展途上国の現場で、直接経済的貧困層の支援活動を行う ICAN にとって、日本での国際理解教育は、現地の問題を日本の子ども達や一般の方に、自分自身の問題として考えてもらう上で、たいへん重要です。ここでは、神戸小学校での実施例をご紹介します。

事例紹介：神戸小学校「学校に行きたい!プロジェクト」

11月7日、三重県鈴鹿市神戸小学校の5年生、3クラスで「学校に行きたい!」というタイトルで国際理解の授業を行いました。

神戸小学校では、総合的な学習(国際理解)として、「学校に行きたい!」という45分×8回のカリキュラムを組んでいました。ICAN は、その中の5・6回目の授業(90分)を担当、「学校に行きたくても行けないパヤタスの子ども達のことを知る」ことを通じて、「学校とは何か、学ぶとは何か」を考えてもらいました。内容は、「子どもが学校に行くということが、家族の暮らしや仕事と関係している」ことを体験するシミュレーションゲームとふり返りです。

ゲームでは、子ども達にそれぞれ 5 人ずつのグループに分かれてもらい、農村・都市の貧困層の家族、富裕な工場長の家族の役を演じてもらいます。ICAN スタッフが鐘を鳴らすと、ゲーム内での一日の始まりで、お父さん、お母さん役の人は働きに行き、子どもは学校に行くか働くかを選びます。「学校へ行く」ことを意識しながら、フィリピンの生活を疑似体験してもらいました。一日が終わると労賃を受取り、市場で食べ物を買うことが原則です。実際には、その日働いたお金で「食べる」ことを選択する家族、「子どもを学校に行かせる」ために働く家族、そもそもお金は「貯金」をするのが一番良い(食べない)という決断をする家族もありました。子ども達の個性や発想、グループの特徴がよく表れていたと思います。(もっとも、工場長の家族だけは、家計の心配はありませんでした)



ゲームの中では、子ども達の目はどうしても「貯金」に向きがちです。ゲームの後のふり返りでは、自分たちの家族が選択したことを改めて思い出しました。「何日働いていくら稼いだか(父・母役)」「何日働いて、何日学校へ行ったか(子ども役)」「何日、食事抜きだったか」などの確認をしたのです。子ども達は、ゲームの中で自分の家族が選んだ生活を思い出し、他の家族の選択した生活について聞くことで、「いろいろな家族の暮らし(価値観や優先順位)がある」ことに気づきました。

更に、子ども達は、実際にフィリピンの現状を聞き、「働くこと」と「学校に行くこと」のどちらかを選択をしなければならない子どもたちの状況を聞きました。自分たちが毎日学校に来ることの意味や、学校に行くことが当たり前でない生活・その日満足に食べることが当たり前でない生活があるという事実に、

改めて向かい合うことになりました。

小学生ということで、「フィリピン」についての突っ込んだ話を授業で初めて聞く子どもが多かったことと思います。先生の協力、JICA の教材、NGO のワークショップと、盛りだくさんの内容の中で、子ども達は授業に参加しながら気づき、考え、学ぶことはたくさんあったと思います。とはいえ、毎回、ICAN が授業にお邪魔することはできませんから、子ども達がどんな事を感じ、心に残してもらえたかの確認やフォローは、現実には困難です。シミュレーションゲームやふり返りを通して、「家族が暮らしていくために、学校に行くか、働きに行くか、選ぶゲームをした」こと、その中で感じたことを、出来る限り覚えてほしいと思いました。

春のスタディーツアー参加者募集！！



サンイシロの子ども達との交流



パヤタスのゴミ山の風景

少数民族が生活する山村サンイシロと、マニラ首都圏郊外のパヤタスにあるゴミ処分場などを訪問し、そこで暮らす住民の現状に触れ、自分でできる支援について考えます。

サンイシロは電気も水道もガスもない不便な所で、農業による収入も充分ではありません。しかし、そこには人々の素朴な暮らしと暖かさがあり、本当の意味での「豊かな」な場所です。パヤタスには、高さ30m、広さ16haに及ぶ巨大なゴミの山があります。悪臭と自然発火したゴミの煙の中、約2千人が、リサイクルできるゴミを拾って生計を立てています。

ツアーでは、サンイシロやパヤタスに関するレクチャー、ICANの支援プログラムの見学、現地の住民達と交流会やホームステイをします。

食べていくのが精いっぱい環境の中で、暖かさやたくましさや失うことなく生きているフィリピンの皆さんや、現地で支えるスタッフに会いに行きませんか？

日程： (サンイシロ・パヤタス) 費用 16 万円
A: 2月27日(金)～3月8日(月)

1日目 フィリピン入国
2日目 オリエンテーション、買出し
3～7日目 サンイシロ滞在(ホームステイ)
村人と交流会、プレスクール見学等
8日目 移動
9～10日目 パヤタス訪問
11日目 帰国

(パヤタス) 費用 13 万円
B: 3月19日(金)～23日(火)
C: 3月25日(木)～29日(月)

1日目 フィリピン入国
2日目 パヤタス、ごみ山見学、ホームステイ
3日目 パヤタス、家庭訪問、ホームステイ
4日目 パヤタス、振り返りのミーティング
5日目 帰国

企画協賛：(特活)アジア日本相互交流センター(ICAN)

受託販売：(株)トラベルステーション
(社)全国旅行業協会正会員 愛知県知事登録旅行業第2-1006
名古屋市中区錦2丁目8-24 瓦葺材10階 TEL.052-232-8555 (FAX 8558)
営業時間/平日：午前9:00-午後6:00 土曜日：午前9:00-午後3:00

主催：(株)ケイ・アイ・エス インターナショナル
(社)日本旅行業協会正会員 国土交通大臣登録旅行業第1502号
LATA公認代理店
名古屋市中区栄4-18-16 NEW BLD 3F

<Happy New Year Cardキャンペーンご報告>

給食プロジェクトの対象校、P.Kindat小学校、Bawing 小学校とSarif Mucsin小学校、Upper Tumbler小学校、Dadiangas East II 小学校の子ども達をHappy New Year カードで励ますカードキャンペーンをおこないました。今回は、国際ボランティア普及協会通信：CLOVERにて紹介をいただき、とてもたくさんの方にこのキャンペーンをお知らせできました。

おかげさまで、子ども達に大きな励ましを送ることができます。心より感謝申し上げます。

【ご協力いただいた皆様】

田島さん、山尾さん、三宅さん、小野寺さん、ATSUKOさん、神宮寺さん、額田さん、沼崎さん、和田さん、内田さん、堤さん、神谷さん、古賀さん、力石さん、松永さん、匿名、久保さん、斉藤さん、八尾市婦人会館の皆さん、金子さん、西野さん、長尾中学校の皆さん、広島女学院高校の皆さん、中西さん、北條さん、嶋さん&田中さん、小林さん、篠原さん、中村さん、三浦さん、小椋さん、大石さん、麻生さん、田村さん、熊本さん、梅田さん、長谷川さん、大山さん、坂井さん、伊丹さん、佐々木さん、近藤さん、松本さん、梶ノ原さん、谷本さん、小坂井高校の皆さん、黒瀬さん、大場さん、駒津さん、大川さん、梶谷さん、小倉さん、井野さん、菱沼さん、伊藤さん、大橋さん、青山さん、酒井さん、上田さん、南野さん、田頭さん、能見さん、対馬さん、中沢さん、モンシェリハウスの皆さん、培良中学校の皆さん、吉田方小学校の皆さん、

【集まったカンパ】 53,411 円 ご協力ありがとうございました

11月末現在、カードを集計中です。おそらく、1500通以上集まったかと思います。若干のカードが追加で到着する予定ですので、後日、再報告をさせていただきます。ありがとうございます！

ご協力者のご紹介 ありがとうございます！ (2003年9~11月)

<文房具> ミンダナオの子ども達への贈り物にしました！

沢上中学校の皆さん、小坂井高校の皆さん、英田中学校の皆さん、代田中学校の皆さん、黒江小学校の皆さん、匿名、田頭さん

【集まったカンパ】 109,475 円

<未使用テレカ> ミンダナオの給食に活用します。

福富さん、三宅さん、草野さん

【集まったカンパ】 1,850 円 相当

<書き損じハガキ> サンイシロの山村教育に活用します。

小熊さん、小坂井高校の皆さん、三宅さん、西崎さん、匿名

【集まったカンパ】 6,785 円 相当

<商品券> 運営費に活用します。

黒澤さん、前川さん

【集まったカンパ】 1,500 円 相当

<クリスマス・年末募金> 支援活動全般に活用します。引き続きご協力ください！

梅村さん、石川さん、木村さん、細野さん、山田さん、垣内さん、佐俣さん

【集まったカンパ】 73,000 円

<その他> 足利東ロータリークラブの皆さんより、「パヤタスの医療支援に」と、30万円のご寄付をいただきました。用途につきましては、次回会報にてご報告させていただきます。

ありがとうございます！

初心者のためのフィリピン講座～Vol.2

コミュニケーション編

里村京子

その1. あいさつはまゆげで！

日本の挨拶がおじぎではじまるようにフィリピンの挨拶はまゆげをあげることで始まります。まゆげをゆっくりあげたり、短くぱっとあげたり、はにかみながらあげたり、まゆげ一つ、いや二つといえど表情がとっても豊か！見知らぬ人でも目があつたらまゆげであいさつ！これがフィリピン流のマナー！？

その2. どこに行くの？どこに行ってきたの？

日本だと「今日は暑いですね」「寒くなりましたね」という天気の話が一番当り障りのない会話の始まり。フィリピンだと「どこに行ってきたの？」「どこに行くの？」で始まることが多い。はじめは、「どうしていちいち聞くのだろう？」なんて思っていたのですが、慣れてくると分かってきました。別に誰とどこに行くのかを詮索したいわけではないのです。「ちょっとそこまで」という程度で十分コミュニケーションになります。「サアアン バ プーパンタ？(どこに行くの?)」と、聞かれたら「ジャン ラン(ちょっとそこまで)」と答えるだけでも十分に会話が成り立ちます。

その3. ボディ・コミュニケーション

誕生日には「ハッピーバースディ京子！」といって満面の笑みと温かい抱擁、そして頬を寄せ合ったりキスしたり。。フィリピンはアジアの中では珍しく西洋文化的な部分が多い国です。また、女性同士で手をつないだり、腕を組んだり、肩を抱いて歩いたり…。目上の人に案内してもらっている時は肩に手を置かれることが多かったです。離れちゃダメよと、なにか守ってくれているような感じなのですが始めは戸惑いました。女の子に急に手をつながれた時もびっくり！こちらから離すわけにはいかないし…文字通り手に汗かく体験でした。フィリピンは暑い国ですがこのようなボディ・コミュニケーションも大切にしています。

日本に帰ってきて寂しいことは、人と目が合わないこと…。見知らぬ人はもちろんのこと、職場の同僚と職場内ですれ違う時でさえ、朝一番以外は目が合わないことがあります。フィリピンでは、マニラほどの都会になると分かりませんが、田舎ではしかめっ面や仏頂面して歩いている人はほとんどいない気がします。フィリピンに久しぶりに帰ると、歩いているだけの時でも自然に顔がニコニコしている自分に驚きます。一人で散歩していてもウキウキ楽しい気分になります。いろんな人があいさつをしようと思って視線を投げかけているのに、しかめっ面で歩いているのはつまらないですね。

フィリピンに行ったら視線から逃げず、積極的に視線を合わせて笑顔を投げかけてみてください。はにかんだような素敵なフィリピンスマイルに出会えるはずですよ！そんな笑顔に会いたくて私はまたフィリピンに行きたくなっちゃうのです。

<<会員になってICANの活動を支えよう!>>

(ICANの活動は会費と寄付金で支えられています。事業会費・事業寄付金は20%が運営費、80%が事業費となります。正会費、運営寄付金は全て運営費となります。)

<ご支持頂けるものを選んで御参加下さい。> (1~4は事業会費、5は正会費です)

(1) 貧困家庭のための里親制度(年会費1万8千円)

一定収入に満たない家庭の子どもに学費・学用品費・医療費等を支援します。1対1の支援です。

(2) ミンダナオの小学校での給食提供(年会費6千円)

少数民族の小学校で、先生や保護者の方と一緒に、栄養不良児に給食を提供しています。

(3) パヤタス支援(年会費6千円)

ごみ拾いで生計を立てている住民が多くすむパヤタスで、職業訓練や医療支援を行っています。

(4) 山村教育支援(年会費6千円)

山村サンイシロで、先住民のために、未就学児童やハイスクール生等の教育支援を行っています。

(5) ICANの運営等の活動全般へのご支援(一般会費3千円、維持会費1万円)

活動全般を支えて頂く正会員です。翻訳や事務局を手伝って頂くボランティアも募集しています。

PICK UP コーナー：医療会員

医療会員は、パヤタスの無料診療や栄養改善プログラムを応援します。現地のケアセンターでは、作業所メンバーの女性たちが、将来のヘルスワーカーを目指して、保健ボランティアや研修に、積極的に参加しています。女性たちを応援する会員の声をご紹介します。



モジャコ

モジャコ(作業所の製品)をつけていると、「これなあに?」と聞かれ、パヤタスのお母さん達の活躍を話せるのがうれしいこの頃です。

伊藤めぐみ



保健の研修に参加する女性たち

12/20に、パヤタスでの活動報告会とチャリティーコンサートを開催!パヤタスの住民の皆さんの健康問題や、ICANの医療支援・ケアセンターでの女性たちの活躍を報告します。お問合せ・お申し込みはICAN事務局まで

新規会員、会員継続者のご紹介(2003年9~11月)

<新規会員> 江口めぐみさん、関俊二さん

<会員継続> 飯島洋さん、竹之内勝美さん、赤星千晶さん、音羽佳子さん、向江秀之さん、岩田晶子さん、伊東伸明さん、小藺直樹さん、大平一誠さん

ご支援、ありがとうございます!

ご入会のお問い合わせは、ICAN事務局まで(受付時間:火~土13時-17時)

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-20-11 NPOプラザなごや2F

TEL&FAX (052) 582-2244 E-mail: info@ican.or.jp ホームページ: <http://www.ican.or.jp/>

会費と寄付金の振込先

郵便振替) NPO法人 ICAN, 00850-6-78233

UFJ銀行) 名古屋駅前支店 普通 2361021 NPO法人 ICAN (エヌピーオーハウジンアイキャン)

E-BANK) 支店番号 210 口座番号 7001258 特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター

JAPANNET BANK) 店番号 001 口座番号 4005809 特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター

点字資料が必要な方はお申し付けください。